

地域の歴史について

日出町在住の方から貴重な写真を提供していただきましたのでお知らせします。



左側「大野一族集合写真」(昭和59年大野家700年記念式典)、右側は枝郷分校正門脇の碑。棚林地区に居住されていたそうです。提供者からは『貧しかったことから「筆」(字)で「寄付」をしたと幼いころ祖父(他界)から聞いた。「字」だけは祖父の字です』とのこと。碑には「昭和5年建之 一金 壹百円 寄贈者～」と。(旧字体)

★★★★★ ★★★★★ ★★★★★ ★★★★★ ★★★★★ ★★★★★

右は平成9年(1997年)6月19日付け発行、別府市立朝日中学校PTA広報部発行の広報紙「やまなみ」からの抜粋です。

本校の初代校長荒金博史氏が、開校前年度にご自身の教育観を披歴したものです。

●子どもが「勉強がダメなだけで自分はダメだ」と考えることがあれば、それは親や大人の責任。

○学校と家庭とが連携し、一人一人を共同で確認しあい、伸ばす環境を創っていく。

もう27年も前の一校長の思いではありますが、大切なことの一つだと感じます。

当時、荒金校長が朝日中学校の事務室で私たちに「今度、東山地区に新しい学校をつくる。そこで今までにない取組をはじめると楽しそうに語られました。上記で述べたことなどの具現化を目指していたのかとあらためて思いました。

『連携』ということ

校長 荒金 博史

学校には、実にさまざま
な子どもたちがいます。そ
れは、大人のわたしたちがそ
れぞれの価値観をもっている
ように子どもたちも育つ
た環境によってそれぞれに
価値観をきずいていきます。

特に、中学生になると友
達関係が急に広がります。
いろんな友達と出会い、友
人との比較から「自分とい
うもの」を知り、自分を築
いていきます。ところが、
子どもたちは進級するにつ
れ価値観が単一化され「勉
強がダメなだけで自分はダ
メだ」と考えてきます。こ
れは親や大人の責任です。
親や大人が子どもを認める

このことは、今の子ども
のあるがままの姿を受け入
れ認めることが必要です。
過剰な期待や神経質なまで
のしつけは精神発達や欲求
不満耐性などの発達をもち
ろん、親や大人への信頼感
も失わせることとなります。
学校と家庭との連携は、こ
こにあります。

一人一人の子どもを共同
で確認しあい、それを伸ば
す環境を創って行くことだ
と言えます。このことをど
うしていくのがこの一年
間の課題です。